

## 茨城大学1dayキャンパス県西会場 模擬授業一覧

学部	時間	担当教員	模擬授業名	模擬授業概要
人文社会科学部	9:20-10:10	井上拓也	なぜ日本の正式国名はただの「日本国」なのか？ーサミット参加国から考える「国のかたち」ー	アメリカの正式国名は「アメリカ合衆国」で、フランスのそれは「フランス共和国」。世界の多くの国の正式国名には、「〇〇国」が付きます。でも日本は、〇〇の部分がなく、ただの「日本国」。なぜでしょう？ この授業では、こうした素朴な疑問を手掛かりに、サミット参加国を始めとする主要国の「国のかたち」=政治体制を考えていきます。
教育学部	9:20-10:10	今泉友里	知識構成型ジグソー法を体験しよう ー知はどこにあるかー	教育を考える上で、知がどこにあるかという問いは避けて通れません。教育学、心理学、哲学などの分野から学び、この問いについて考えてみましょう。 大学でもアクティブ・ラーニングが推奨されていますが、特に教育学部で将来教師になるために学ぶには、多様な授業方法を体験することが役立つはず。模擬授業ではアクティブ・ラーニングを引き起こしやすいと言われる「知識構成型ジグソー法」を体験してみましょう。
理学部	9:20-10:10	田内広	基礎生命科学入門	生命現象を理解するための基礎となる「遺伝子とは何か」を中心に、生物が遺伝子を維持する仕組み、遺伝子の多様性などについて、研究方法にも触れながら概要をお話します。
工学部	9:20-10:10	辻村壮平	人が快適に過ごすための建築環境デザインの考え方	たとえ見た目は非常に良い建築であっても、建築内部の空間が利用者にとって不快であれば、それは決して良い建築物とはいえません。建築における快適性について、音・光・熱・空気のそれぞれの環境と人の関係やそれをどのようにデザインに結び付けるかをやさしく解説します。人が快適に利用することができる建築環境デザインについて、具体的な研究・開発事例も紹介しながら、皆さんも一緒に考えてもらえるような講義を行います。
農学部	9:20-10:10	迫田翠	作物生産現場から考える気候変動ー土壤微生物の理解と利用	気候変動の深刻化は作物生産にもダメージを与えています。一方で、水田や畑は温室効果ガスの排出源でもあります。土壌には、温室効果ガスを生成、消去する微生物や、作物の生育を助ける微生物が息しています。作物生産、土壤微生物、気候変動の関わりについて解説し、微生物を用いて環境負荷の少ない作物生産を目指した研究を紹介します。さらに、茨城大学の卒業生である講師から見た、茨城大学の特色についてもお話します。
地域未来共創学環	9:20-10:10	池田真也	茨城は豊かなのか？～データと経済学の実践～	茨城県は日本で3番目に農業が盛んなので食べ物が美味しいです。また日本で11番目に給料が高いのに土地が安いので広い家に住むこともできます。では、なぜ都道府県魅力度ランキングは最下位なのでしょう？この模擬授業では豊かな暮らしができそうかどうかを判断するための新しい経済指標についてお話します。